第 2012-11 号

恵みと真理のニュース

2012 年 6 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]　礼拝を捧げる幸せを与えてくださいました。

私は不信仰の人と出会いました。そしてイエス様を信じることを固く約束して上で結婚をしました。お酒も、タバコも少しはやっていると聞きましたが、私は少しなら大丈夫だと思っていました。しかし、少しではなくアルコール中毒に喫煙中毒だったのです。さらに、お酒を飲んで他の人とケンカをして頭にケガをして帰ってくる日も、全身あざだらけになって帰ってきた日もありました。

娘が3歳のときです。その日も相変わらず、旦那はお酒を飲んで帰ってきて寝ていました。私はその姿を見て心が痛くてとても辛かったです。娘は私に“パパがお酒を飲まなくなるようにママが祈って。”と言いました。当時3歳だった娘は小さいその手を旦那の足に置いて祈りました。“イエス様、パパがお酒を飲まないようにしてください。”その後、娘は旦那のために祈る習慣ができました。私が置かれた環境は大変でしたが、主日礼拝、週中礼拝、金曜祈り会に毎回参加して神様に切なく祈りました。そして私に与えてくださった務めに頑張って就くように努力しました。しかし、旦那は安定的な職場もなく、就職しようと履歴書を出しても落ちるばかりでした。そのある日、金曜祈り会の時間に声を出して祈っている中精霊のバプテスマを受けて異言を語るようになりました。そして悔い改めと感謝の祈りを続きました。心が熱くなって、ずっと祈り続きながら主が私のすべての問題を解決してくださったという確信ができました。まるで、この世を得たような喜びが心に溢れました。また、心がすっきりして感謝の気持ちがいっぱいになり喜びが満ち溢れました。その日の夜中家に帰ってきて次の日の朝になりました。そして、とても素晴らしいことが待ち受けていました。旦那が以前履歴書を入れた会社から出勤してくださいという連絡がきたのです。そして何日か経ったある日、旦那はいきなり胸が痛くてお酒もタバコもできないと言いました。それからずっとお酒もタバコもやめるようになりました。また旦那も教会にちゃんと行くようになり、まじめに信仰生活をするようになりました。精霊と御言葉で生まれ変わったのです。今は按手執事として主を仕えています。ハレルヤ!!

ある日、娘が転んで病院へ連れて行きました。しかし、手首の4箇所の骨が曲がっていることがわかりました。医者は“折れた骨より曲がった骨が回復しにくいです。”と言いました。それで石膏をして帰りました。約一ヶ月石膏をして最初の一週間は二回ぐらい通院をするように言われました。その日の夜、家に帰ってきて寝ていた娘がいきなり泣き始めました。私は娘の手首に手を置いて神様に切なく祈りました。その後、神様が治してくださったという確認ができて感謝と喜びが満ち溢れました。それで娘の手首の石膏を外して再び寝かせました。娘はそのまま泣かないでぐっすり眠れました。次の朝、目が覚ましたらケガをしていた娘の手首が正常に動いていました。それから病院にも行っていませんが、異常もなく、今まで何の後遺症もなく生活をしています。神様が治してくださったのです。

“するとイエスは言われた。「できるものなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」”（マルコ9:23)の御言葉のように信仰をもって祈ることに答えてくださる神様に感謝を捧げます。今までも、とてもすばらしい神様のその恵みの中で生きてきました。今は娘たちと一緒に聖歌台で賛美をしながら幸せな時間をおくっています。長女は祈っていたどおりに固い信仰をもっている男性と出会って結婚をしました。長女は“神様は私たちが祈るすべてのことを聞いてくださるから最初は不思議だと思いましたが、今は当然なことだと思うようになってただ、感謝するだけです。”と告白しました。私たちの家庭を変えてくださり、救ってくださった神様に無限な感謝を捧げます。今は毎日喜びと感謝の生活をしています。すべての栄光を神様に捧げます。

[信仰コラム]　救いを得る信仰

“私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行ないがないなら、何の役に立ちましょう。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。”（ヤコブ2:14）

“あなたは救われましたか。”という質問に対して“はい、そうです。”または、“もちろんです。”と答えられる人は祝福された人です。しかし、‘救い’とは何なのか、その事実を知らないまま、救われたと思う人がいます。その人は、迷妄に落ちた人です。

我々が知るべきことの中で‘救いの訳’よりもっと重大なことはありません。
この世にはたくさんの宗教があります。その中には経典がある宗教もあります。しかし、救いが得られる道を教えている経典は聖書しかありません。聖書で救いの用語が使われるときは例えば、ある危険や困難から救われたとき、また疾病の中で救われたとき、罪の許しを受けたときです。このようにだいたい三つに分けることができます。それでは救いに関するとても核心的な要点になる二つの真理について述べていきます。

第一の要点は、救いはおこないによって得られるものではなく、信仰によって得るものだという真理です。救いは神様が人々に与えてくださる恵みであり、プレゼントです。ノアの時代、神様が大洪水でこの世を滅ぼしました。そのときノアの家族8人だけが救われました。彼らが他の人と何が違ったのでしょうか。それは、神様の御言葉をそのまま信じて船箱の中に入ったことです。即ち、イエスキリストの中にいる者が救われるのです。その要件は、ただイエスキリストの命の代価を信じる信仰だけなのです。しかし、他ものに頼ったり、拝したりすることは救いを排斥することに限りません。

救いに関するもう一つの要点は、救いを得る信仰におこないの実がついているという真理です。ローマ3章とヤコブ2章に書いている‘信仰’と‘おこない’は相互矛盾していて相反するものだと誤解するがちです。しかし、全然相反しているものではありません。相互補完していて救いまでとどく信仰の性格をはっきりみせています。‘おこないのない信仰’とは中身のない有名無実なものであり、知識的な同意や認めることに限らないということを説明しています。

アブラハムは一人息子のイザクを焼き尽くす捧げものにしなさいという神様の命令に従いました。アブラハムの行動はおこないのある信仰を証明しているのです。ブドウの木にブドウが結ばれ、イチジクの木にイチジクの実が結ばれるように正しい信仰をもっている人にはその信仰に相当する実が結ばれます。まだ小さな木はその特徴を全部発見することができませんが、少しずつその特徴を現すようになります。このように真実な信仰を持っている聖徒は少しずつその特徴が行動として現すようになります。

礼拝に参加し、福音を伝えるとして救いを得ることではありません。また、頑張って主の働きをして善のことをすることによって救いが得られるものでもありません。イエスキリストを信じる信仰をもっていれば救いを得ることができます。

イエスキリストを信じる人はその信仰により、礼拝を楽しむことができます。
また、福音を伝えながら主の働きのため、善のことのために頑張ることができます。尊い儀のある真実な方にたって行います。福音から離脱された言葉は使わないこと、偶像を拝し従い許すことはありません。これは救われたからこそ結ばれる実であります。信仰とおこないを分離することはできません。信仰による行動はイチジクの木にイチジクが結ばれるように当然であり、自然なことです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

疎通と幸福

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

疎通は望ましい社会を成す要素の一つです。疎通と言うのは支っかえないでよく通じることを示します。
人間関係での疎通はその社会の安定と発展に必須です。疎通は仕事をなだらかで能率的に遂行することでもあります。
円滑な意思疎通は家政と各種の組職器具の構成員たちに意欲と楽しさを与えます。
意見不一致、意思不通がもたらす損失と苦痛は少なくは個人に限りますが大きくは戦争のようなおびただしい災いを及んで来るようになります。
人間関係の円滑な疎通のために人々が取り揃えなければならない基本的な品性があります。
その第一は正直です。欺く人とは疎通にならないです。
相手がだまされている間には疎通になると言っても持続的に欺くことはできません。だまされたことが分かればその日からその人を境界対象にするはずで彼の話を信じないから疎通が難しくなります。
正直な人と話し合えば意思疎通は上手くできます。
その第二は愛する心です。
理解して憐れんで許しを施すことから愛が実践されます。
だから愛の実践には犠牲が伴うのです。
疎通は施すことと受け入れることを通じて成り立ちます。施すことがなければ受けることができないし,受けなければ施すことも無駄になります。犠牲的に施してありがたく思って受ける関係になれば、円満な疎通が成り立つようになります。
力を施して感謝した心でその好意を受けてくれる人にならなければなりません。そして、円滑な疎通が成り立つように努力する人が多い社会にならなければなりません。
疎通が上手くできる人々が集まれば、どんな大変な事でも解決して行く底力が生じます。発展する社会を作って幸せな社会を作ることができます。
本日私が重点的に申し上げようとするのは神様との疎通です。神様と疏通することができないことよりもっと大変な悲劇はないです。
人類の先祖アダムとエバは神様と疎通が円満でした。ところでつい疎通が困るようになる事件が発生しました。神様が禁じた善と悪を知る果実を取ってたべたからです。
善悪果実を取ってたべた後は神様に対する恐れが入り込みました。そして園の木の間に身を隠れました。
結局アダムとエバはエデンから追い出されました。罪を犯す以前のように神様と円滑な疎通ができなかったです。しかし神様は罪人を哀れんで対話を全く断絶しなかった。
人間の努力では神様と疎通することができる道はなかった。
これは根本的の罪の問題が解決されなければならないのです。
これのために神様が与えた解決策が贖いの福音です。
救世主がこられ罪人の罪を負い刑罰を受けたので、彼を信じる者はみな罪許される恵みを受けたのです。
神様が定めた時にキリストが世の中へ送られて拘束使役を果しました。
これによって神様と人の間に詰まってあった塀が崩れました。聖書は次のように記録されました。
『敵であったときでさえ,御子の死によって神と和解させていただいたのであれば,和解させていただいた今は,御子の命によって救われるのはなおさらです。』（ローマ５：１０）
『しかし今や、神は御子の肉の体において,その死によってあなたがたと和解し,御自身の前に聖なる者,きずのない者,とがめるところのない者としてくださいました。』（コロサイ１：２２）といいました。
もう人はキリストによる神の許しと愛を受け入れること以外にできる事がないです。これが罪許しを得る悔い改めです。
罪を犯して不義と不潔のそのまま神様へ出て来れば義の衣を着せてくださるし御子の身分を持つようにして下さいます。
神様との疎通のためには罪を悔い改めるのが先決条件です。他に言えばイエス。キリストを信じて受け入れなければなりません。そうすれば、正しくなって,神の子になって,神様の御座の前に大胆に進むことができます。
その後からは私たちは神様ともっと豊かに意思疎通をしながら生きて行き方を学ばなければなりません。救いを得たからこれからは神様と意思疎通をいくらでも活発にしながら生きて行くことができます。このため私たちが心に留めおいて行うことがあります。

第一,神様のお話を昼夜に黙想しなければなりません。

詩篇１には**『いかに幸いなことか／神に逆らう者の計らいに従って歩まず／罪ある者の道にとどまらず／傲慢な者と共に座らず主の教えを愛し／その教えを昼も夜も口ずさむ人』**（詩篇１；１~２）聖書を読んで説教を傾聴しなければなりません。

第二,神様に常に祈らなければなりません。

祈は神様と交通する卓越の手段です。聖書には私たちに祈りなさいという言葉がたくさん記してあります。神は私たちのいいお父さんです。
望むものを何でも願いなさいといいました。
絶えず祈りなさいといいました。
口を廣く開けよ、わたしはそれを滿たそうといいました。いつどのような方法でくださるかは、神に任せて、私たちは問わず何でもたくさん求め願います。たくさん求めた者が多く受けるようになって大きく求めた者が大きく得られます。神様たくさん求めた者が神との円滑な疎通をしながら生きるようになることです。

第三、主様の意思やみこころに従うべきです。

自分の主観を捨てなければ、神との円滑な意思疎通が上手くできるはずがないです。
イエス様の弟子たちも一時期はイエス様のお話を聞く時,自分の主観と判断するようになれば正しい答えができないのです。
“人々は、人の子のことを何者だと言っているか”とお尋ねになった。
弟子たちは言った。『洗礼者ヨハネだ』と言う人も、『エリヤだ』と言う人もいます。ほかに、『エレミヤだ』とか、『預言者の一人だ』と言う人もいます。
イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」シモンペトロが,「あなたはメシア,生ける神の子です」と答えた。
『すると,イエスはお答えになった。「シモン.バルヨナ,あなたは幸いだ.あなたにこのことを現したのは,人間ではなく,わたしの天の父なのだ。わたしも言っておく.あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府の力もこれに対抗できない。わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる。』（マダイ１６；１７-１９）
このときから,イエスは,御自分が必ずエルサレムに行って,長老,祭司長,律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっている、と弟子たちに打ち明け始められた。
すると,ペトロはイエスをわきへお連れして,いさめ始めた。「主よ,とんでもないことです。そんなことがあってはなりません。」
イエスは振り向いてペトロに言われた。「サタン,引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず,人間のことを思っている。」（マダイ１６：２３）
それから,弟子たちに言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」（マダイ１６；２４）
弟子たちはイエス様と円滑な意思疎通ができなかった。その理由はイエスが指摘したとおり弟子たちが自分十字架を負わなくイエスに従おうとしたからです。
彼らはイエスをまめに従えば早いうちにイエスがイスラエルをローマの支配から脱するようになさって、王になる時自分たちを高い官職に座らせてくれると期待していました。だからイエスのお話をそのまま受け入れることができなったのです。そしてイエス様のお話にまとまらない答えを言って行動したのです。
ペテロは信仰告白を上手にして、イエス様が予告するお話が自分の心に迎えないからこれを拒否して否定しようと出ました。イエスの意思に反する言行をしました。自分の主観によってイエス様のお話を判断すれば、サタンと異端に疏通するようになります。
神様と疎通が上手になるためには神様の考えとみこころを加減しないそのまま受け入れなければなりません。
それが自分十字架を負い私に従いなさいと命じたお話の意味です。
人が神様と円滑な疎通ができる事実はまことに驚くべきで奇妙な事です。イエスキリストによって信じるすべての者にこんな恵みが与えられるのです。愛する聖徒の皆さんはこんな福を受けた者です。
それだけではなく、皆さんは聖書を黙想するのを楽んで、願いを積極的に神様に捧げ、神様の考えとみこころへ完全に従って生き、神様と深くて豊かな疎通ができる暮らしになるのを祝福し祈ります。